

四日市市に霞ヶ浦テニスコートがオープン

2018年5月25日、待ちに待った四日市市営霞ヶ浦テニスコート（三重県四日市市大字羽津甲）がオープンしました。9時からセンターコートにて開場式が行われ、最初に、四日市市長の森智広様から挨拶があり、その中で、「四日市は“テニスの街”と自信を持って言える」と、テニス関係者にとっては本当に心強い言葉をいただきました。三重県テニス協会からは衆議院議員で会長の川崎二郎、同副会長の馬瀬隆彦が出席、その他、計画段階から施設完成までに深く関わった議会、行政、各方面の事業者等およそ50名の関係者がコート内の特設席に顔を揃えられました。また、周囲の観客席には、このコートで夏に行われるインターハイの出場校を決める三重県予選（団体の部）に出場する県内高校テニス部部員1400名と各校監督も勢ぞろいし、共に新しいテニスコートの完成を祝いました。



森市長、川崎会長、関係の皆様によるテープカット

USオープンと同じサーフェスのコートで四日市から世界を目指す

霞ヶ浦テニスコートは16面のテニスコートと2階建てのクラブハウスからなります。屋外8面と屋根付8面で、サーフェスはすべてハード、USオープンと同仕様、同カラーを採用しています。川崎会長が挨拶の中で参列していた高校生に向かって「3年後の有明でのオリンピック、そしてUSオープンと同じ仕様のコートでプレーする、その経験を一生の思い出に、みなさんの人生を歩んでほしい」と言われました。地元のジュニアが、小さいときから有明やフラッシングメドウと同じサーフェスのテニスコートで練習できるようになるということには、非常に大きな意味があります。世界でプレーすることに、さらに勝つことに思いを持ち、実現する若者が出てきて、いつか、ここで育った選手が世界の舞台上で活躍する・・・それこそ私達の夢です。



センターコート、後に四日市ドームが見える

プレーしやすく、見やすく、応援しやすい テニスコートを目指した

次にコート配置についてですが、正門を入ると、中央に幅4mの「アスリートモール」と呼ぶ通路が奥まで一本道通っています。手前に8面の屋外コートがあり、左側手前にはセンターコート（1017席）その奥にはサブコート（470席）を配置、右側には1ブロック2面ずつ、3ブロック6面の屋外コート（555席）が配置



まっすぐ奥まで伸びるアスリートモール

されています。その奥に 8 面の屋根付きコート（740 席）があり、これは、コートが 4 面入るかまぼこ形のドームを 2 つ合わせて作られており、やはり、1 ブロック 2 面ずつ、通路の左右に 2 ブロックずつ配置されています。各ブロックは横並び 2 面のコートですが、ブロック間にはすべて通路があり、この通路から外側のコートへの入口が設けられており、プレイヤーは他のコートに入らずに目指すコートに入ることができます。



屋外コート フェンスがなくとも見やすい、

また、すべてのコートに観客席があり、「アスリートモール」に面した内側のコートには、屋外は 2 列、屋内は 3 列の観客席、外側のコートには屋外、屋内とも一列の観客席が作られ、サイドから観戦できるようになっています。この観客席とコートの間にはフェンスがなく遮るものが全くなくて、観客は選手の息遣いも聞こえる間近な場所で、選手との一体感を感じながら、試合を見ることができます。それでいて、後ろの通路には濃く目の細かい防風ネットが取り付けられていて、ほとんど人影は見えません。また、観客席はサイドにあります、審判台横の選手ベンチまで 4m 以上の距離をとっているため、人がアスリートモールを行き来してもプレイヤーの視界には入りにくくなっており、プレイヤーは観客を気にせず、テニスに集中できるように工夫されています。



二重のドーム型屋内コート、8 面は国内最大級



霞ヶ浦テニスコート配置図

昼間は心地よい浜風の中で、夜は美しいコンビナート夜景が楽しめる

さて、霞ヶ浦というところはかつては美しい白砂青松の海岸で、山口誓子が詠んだ富田浜と午起海水浴場の間に位置しています。1970 年代に、沖合に人工島が作られ、富田浜の沖合が四日市港の埠頭、霞ヶ浦の沖合が第 3 コンビナートとなりました。その後、海岸には霞ヶ浦緑地、人工島との間の海は四日市港の運河となりました。



コートから見えるコンビナート夜景

このような立地ですから、テニスコートには終始、心地よい浜風が広い運河を渡って吹いており、気持ちよくテニスに興じることができます。夕方になると「伊勢の夕風」と言いますが、ぴたりと風が止まり、暗くなってナイターの時間になると、風で静かな運河には、対岸のプラント群の七色の照明がキラキラ反射して、美しいコンビナートの夜景をみることができます。この公園は全国的にも有名なコンビナートの夜景撮影スポットで、写真のような夜景をテニスコートから直に眺めることができます。

市長が“テニスの街”と言えるだけの施設面での三つの自慢

市長は挨拶で「四日市は“テニスの街”と自信を持って言える」と言われました。それは、昨年、インターハイ女子団体で四日市商業高校、全国選抜男子団体で四日市工業高校、全中男子団体では海星中学校がそれぞれ優勝、さらに個人戦でも全国優勝者が何人も出たというようにジュニアのテニス界での大活躍があります。それとともに、このコートの開場で施設面でも次の3つの意味において自信を持てるようになりました。

第1は、新コートがUSオープンと同様のサーフェスという点です。しかし、それなら今や他にもいくつもあります。このコートは、前述したように、コートや観客席などの配置が細部まで工夫が凝らしてあり、とてもプレーしやすく、見やすく、応援しやすいように施工されており、選手と観客が一体となってテニスを楽しめるコートであるという点です。



四日市ドーム 12面のコートを設営できる

第2は、霞ヶ浦テニスコート16面は、四日市ドーム（屋内12面の砂入り人工芝コート）に隣接する。さらにおよそ約2km離れた場所には昭和48年のインターハイ、昭和50年の国体の主会場となった三滝テニスコート（屋外14面の砂入り人工芝コート）もあり、これら3施設を合わせると合計42面で総面数で日本最大級のテニスコートの集積地ができたという点です。



滝コート 砂入り人工芝14面

第3は、霞ヶ浦テニスコートは8面の屋内（屋根付き）を持っているという大きな自慢なのですが、隣接した敷地に四日市ドームがあり、ここには砂入り人工芝コート12面があります。サーフェスはハードと砂入り人工芝で2種類ではありますが、室内で合計20面のテニスコートというのは、これも日本で最大級なのです。

2018夏 インターハイ、2021秋には 三重とこわか国体そして、霞ヶ浦を日本のテニスプレーヤーのあこがれの地に

この夏は8月に東海インターハイ（平成30年度全国高等学校総合体育大会～2018彩る感動東海総体テニス競技）が開催されます。次いで2年後の2020年には全国都市対抗テニス大会、3年後の2021年には三重とこわか国体（国民体育大会テニス競技）の舞台となることが決まっています。まずは、それらの大会をしっかりと運営できるよう、万全の体制を作って、準備を進めます。

私達は、これらの大会の運営を進める中で、大会運営の力量を高めるとともに、三つの自慢と書いた全国に誇れるテニスコートの特性をアピールして、様々な大会を誘致して、四日市を国内外のテニスプレイヤーが集まる場所にし、いつかは彼らがこのコートでプレーすることをあこがれる・・・そんな場所にしていきたいと思っています。

また、近年は、先に書いたようにジュニア強化で成果が上がり、全国で活躍できるチームや選手がいくつも出てきました。これを持続・発展させ、このコートを全国や世界で活躍するプレイヤーを輩出できる場所にすることを目指します。

さらには、子どもたちから、お年寄りまで、テニスをやって、見て、教えて楽しむスポーツ文化を創り出し、市長に宣言いただいた、“テニスの街”を本当の意味で実現していくことを目指していきたいと考えています。

三重県テニス協会 理事長 河西善哉



対岸から見た霞ヶ浦テニスコートと四日市ドーム <左からドーム、体育館、屋外コート、屋内コートの順に並んでいる>